2018年3月期

決算説明会資料

2018年5月11日

大成建設

TAISEI

For a Lively World

✓ スライドを用いて項目ごとにご説明します

✓ なお、基本的に連結ベースでの説明です

主要数値の実績と予想

〔連結〕

✓ *営業利益が2年連続で、経常利益、当期純利益は3年連続で過去最高益を記録*

（億円）

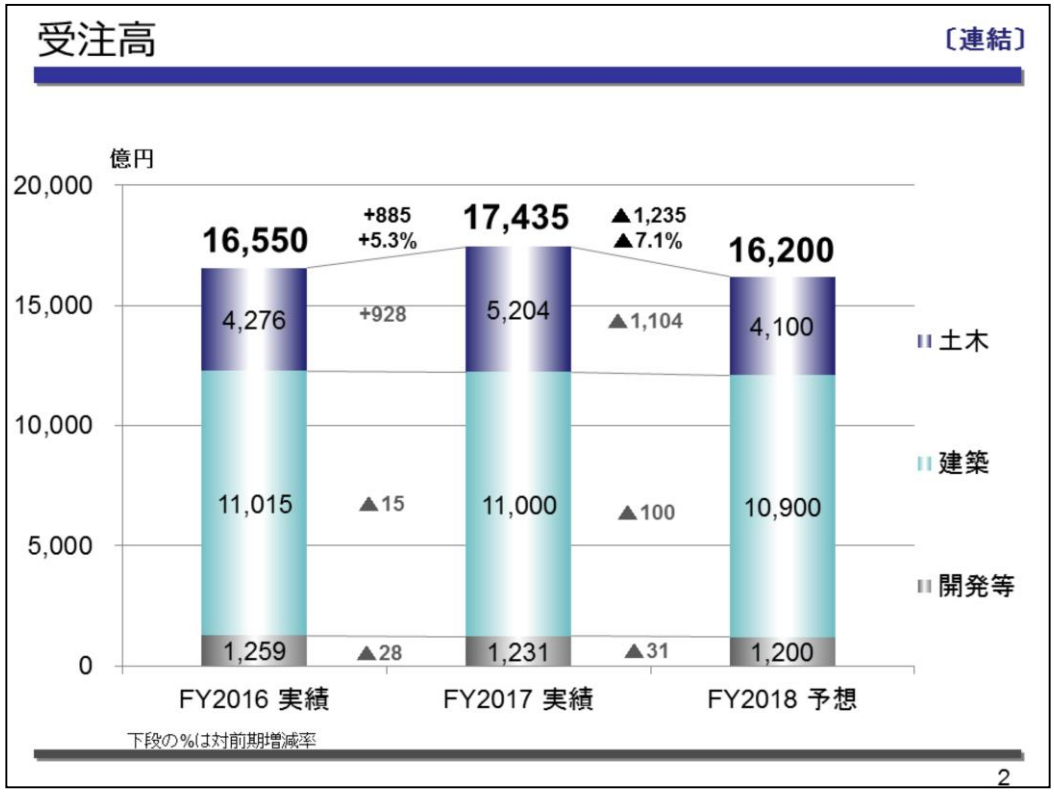
	FY2016 実績	FY2017 実績	増減	FY2018 予想	増減
受注高	16,550	17,435	+885	16,200	▲1,235
売上高	14,873	15,855	+982	15,900	+45
売上総利益	2,263	2,666	+403	2,180	▲486
	15.2%	16.8%	+1.6Pt	13.7%	▲3.1Pt
営業利益	1,408	1,819	+411	1,310	▲509
	9.5%	11.5%	+2.0Pt	8.2%	▲3.3Pt
経常利益	1,446	1,853	+407	1,330	▲523
	9.7%	11.7%	+2.0Pt	8.4%	▲3.3Pt
親会社株主に帰属する当期純利益	906	1,268	+362	910	▲358
	6.1%	8.0%	+1.9Pt	5.7%	▲2.3Pt
1株当たり当期純利益(円)※1	392.87	561.36	+168.49	415.05※2	▲146.31
ROE	16.7%	20.5%	+3.8Pt	13.4%※2	▲7.1Pt

※1 2017年10月1日付で当社株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、2016年度期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定している
※2 2018年度予想における、1株当たり当期純利益およびROEは自己株式取得を考慮している

1

✓ 当期業績は、前期実績に対し、受注高・売上高は増加、各利益項目は大幅な増益となり、営業利益は2年連続、経常利益と当期純利益は3年連続で過去最高益を更新しました

✓ 次期目標は、受注高は減少を見込みますが、売上高は当期並みを見込み、利益項目は減益となる見込みです



- ✓ 当期の受注高は1兆7,435億円となり、対前期で5.3%増加しました
- ✓ 土木は、国内・海外ともに増加し、928億円増加しました
- ✓ 建築・開発等は、概ね前期並みでした

- ✓ 次期は1兆6,200億円と、当期から7.1%の減少を見込んでいます
- ✓ 特に土木は、当期に大型案件が集中した反動から、減少を見込んでいます

〔参考〕当期の主な受注工事 [土木]

官民	工事名称	発注者
官	平成29年度中間貯蔵(双葉2工区) 土壌貯蔵施設等工事	環境省
官	大阪市海老江下水処理場改築更新事業	海老江ウォーターリンク株式会社
民	南山東部土地区画整理事業 第3期債務負担工事	南山東部土地区画整理組合
官	東京国際空港A滑走路保安施設用地基礎及び上部等 工事	関東地方整備局(港湾局)
官	高速大師橋更新事業(工事) 土木工事	首都高速道路株式会社

官：官庁
民：民間

3

✓ 主な受注工事のうち、土木工事はご覧の通りです

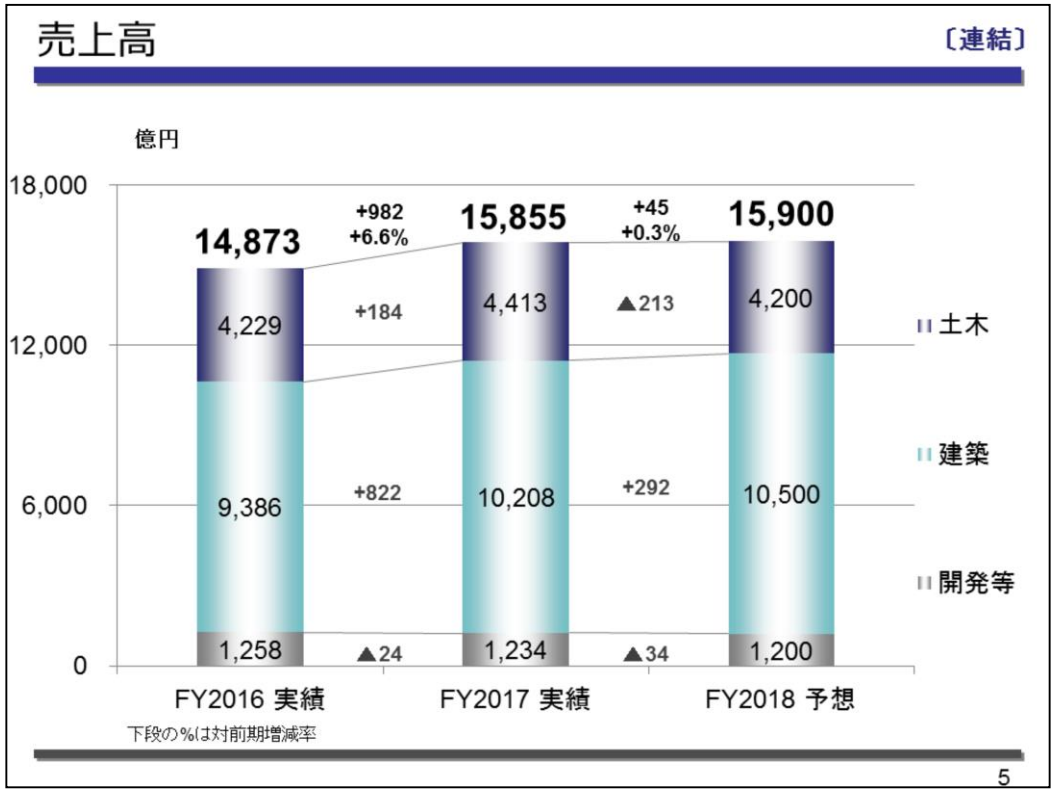
〔参考〕当期の主な受注工事 [建築]

官民	工事名称	発注者
民	東京国際空港第2ターミナル国際線施設建設工事	日本空港ビルデング株式会社
民	（仮称）丸の内1－3計画新築工事	株式会社みずほフィナンシャルグループ 一般社団法人全国銀行協会 三菱地所株式会社
民	（仮称）大手町1－4－2計画	大手町142特定目的会社
民	（仮称）豊洲二丁目駅前地区第一種市街地再開発事業 2－1街区B棟　新築工事	三井不動産株式会社
民	銀座線銀座駅ほか2駅改良建築・電気・土木工事	東京地下鉄株式会社

官：官庁
民：民間

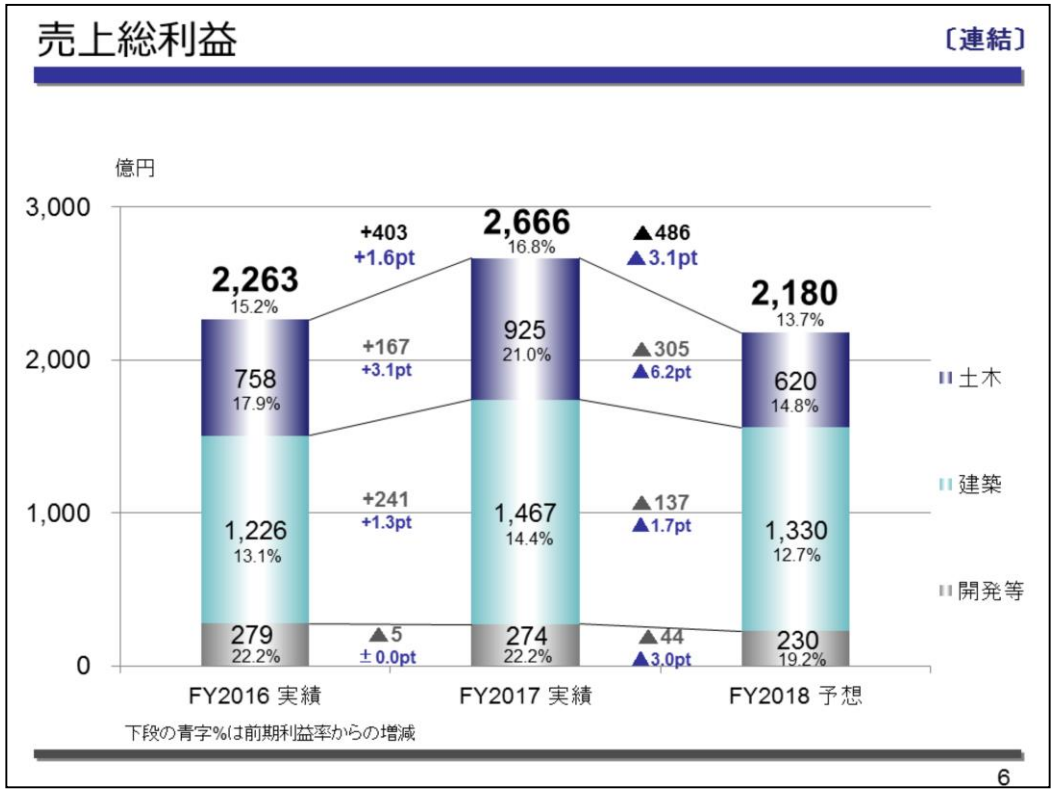
4

✓ 主な受注工事のうち、建築工事はご覧の通りです



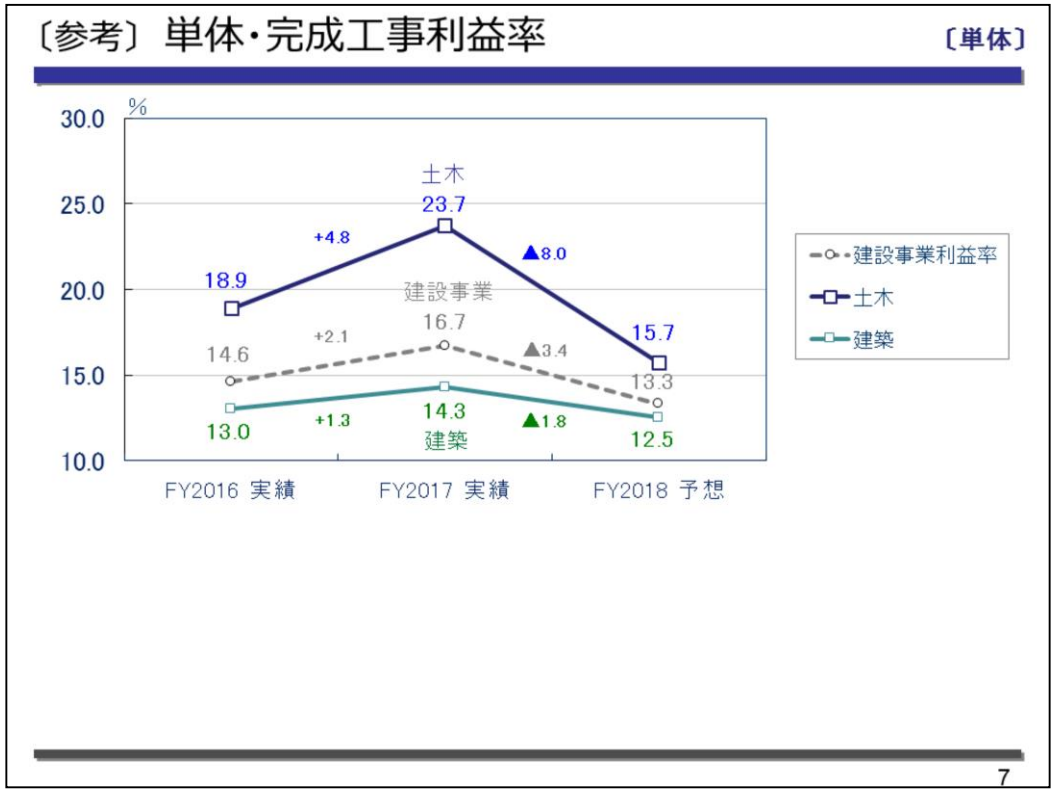
- ✓ 当期の売上高は1兆5,855億円となり、対前期で6.6%の増収となりました
- ✓ 土木は、単体・子会社とも増加し184億円の増収となり、建築は、単体で豊富な期首手持工事の施工が順調に推移したことから822億円の増収となりました
- ✓ 開発等は、概ね前期並みとなりました

- ✓ 次期は1兆5,900億円と、概ね当期並みを見込んでいます
- ✓ 土木は、手持工事は増加しているものの、工事が本格化しない大型工事が多いことから213億円の減収を見込んでいます
- ✓ 建築は、豊富な手持工事の進捗により292億円の増収を見込んでいます
- ✓ 開発等は、大成有楽不動産で物件売却の減少等により減収を見込んでいます



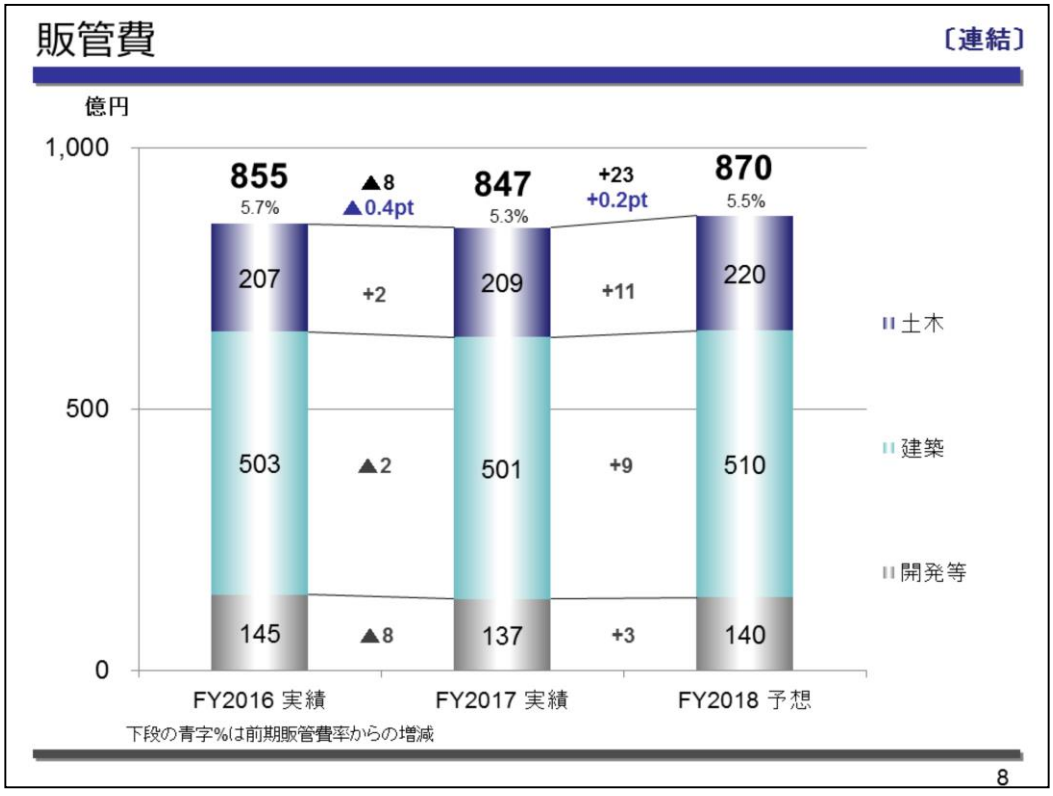
- ✓ 当期の売上総利益は2,666億円となり、対前期で403億円の増益となりました
- ✓ 土木は、国内で工期終盤の大型工事における追加工事の獲得や工程進捗に伴う原価低減により、167億円の増益となりました
- ✓ 建築も、国内での増収に伴う増益に加え、手持大型工事の原価低減により、241億円の増益となりました
- ✓ 開発等は、単体で物件売却による利益が減少し、5億円の減益となりました

- ✓ 次期は2,180億円と、486億円の減益を見込んでいます
- ✓ 土木は、減収に加え、当期に工期終盤の大型工事における収支改善があった反動により利益率が低下し、305億円の減益を見込んでいます
- ✓ 建築は、増収を見込みますが、土木同様に当期からの反動により利益率が低下し、137億円の減益を見込んでいます
- ✓ 開発等は、大成有楽不動産の物件売却の減少等により減益を見込んでいます



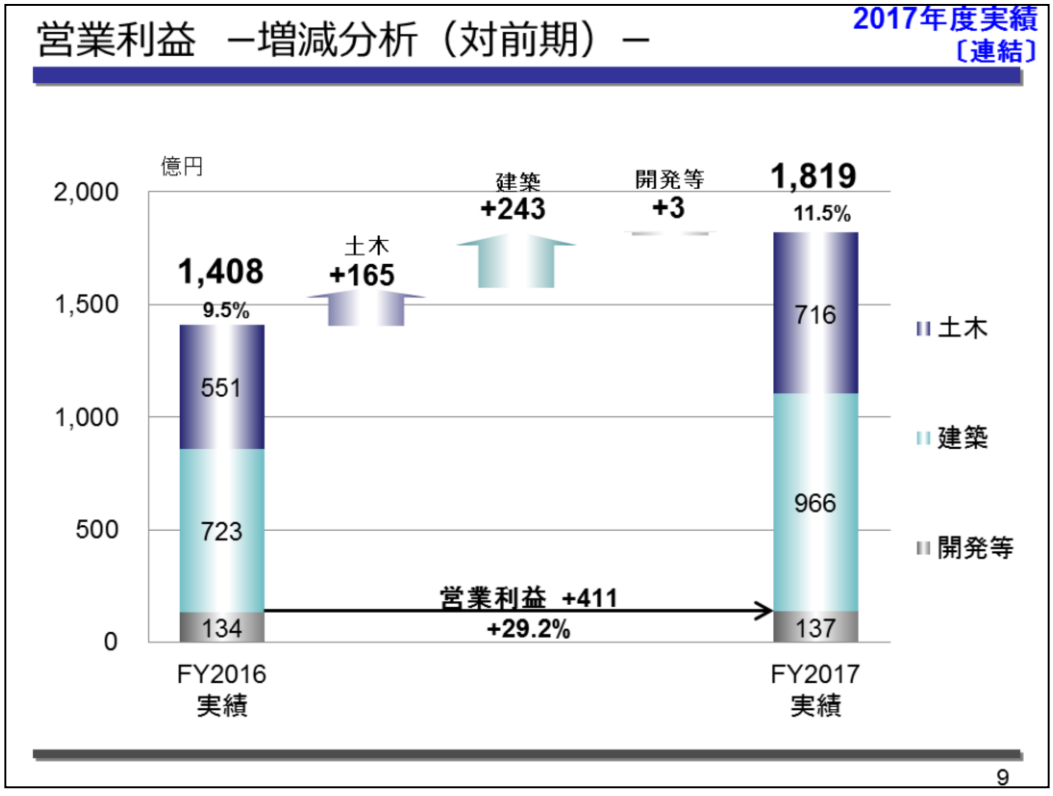
- ✓ 当期の完成工事利益率は16.7%となり、対前期で2.1ポイント好転しました
- ✓ 土木は、対前期で4.8ポイント好転の23.7%、建築は、対前期で1.3ポイント好転の14.3%となりました

- ✓ 次期は、土木は8.0ポイント悪化の15.7%、建築は1.8ポイント悪化の12.5%、建設事業では3.4ポイント悪化の13.3%を見込んでいます

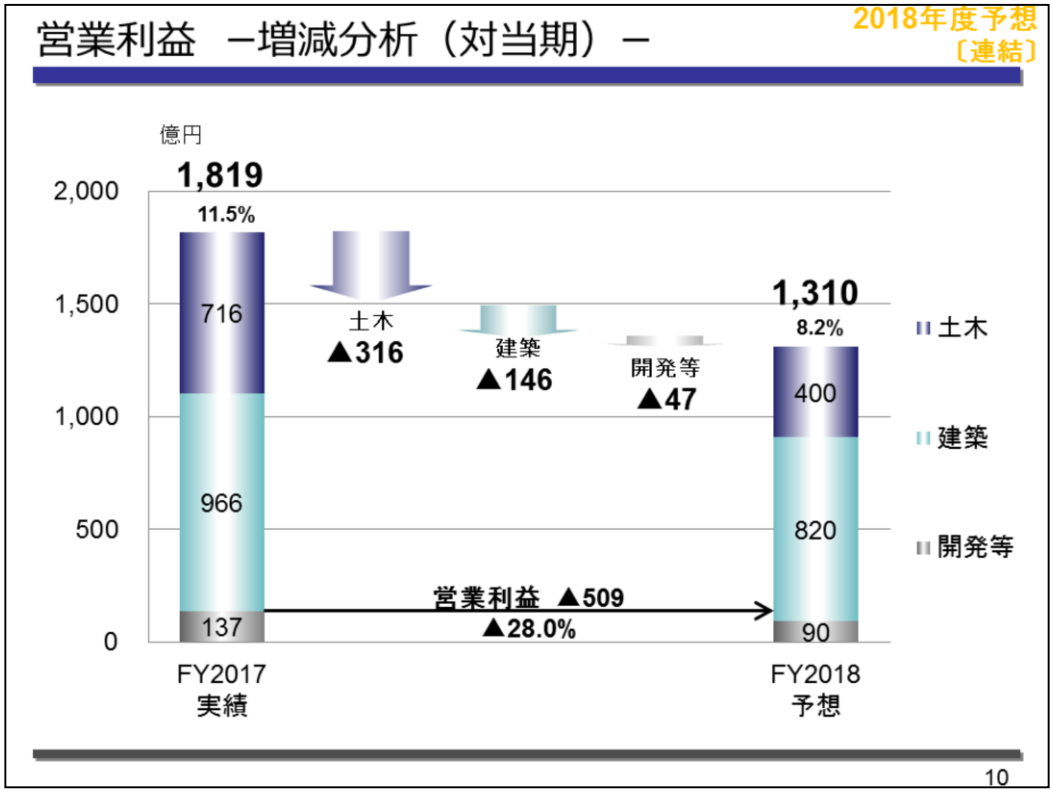


- ✓ 当期の販管費は847億円となり、対前期で8億円減少しました
- ✓ 開発等で、不動産販売費が減少しました

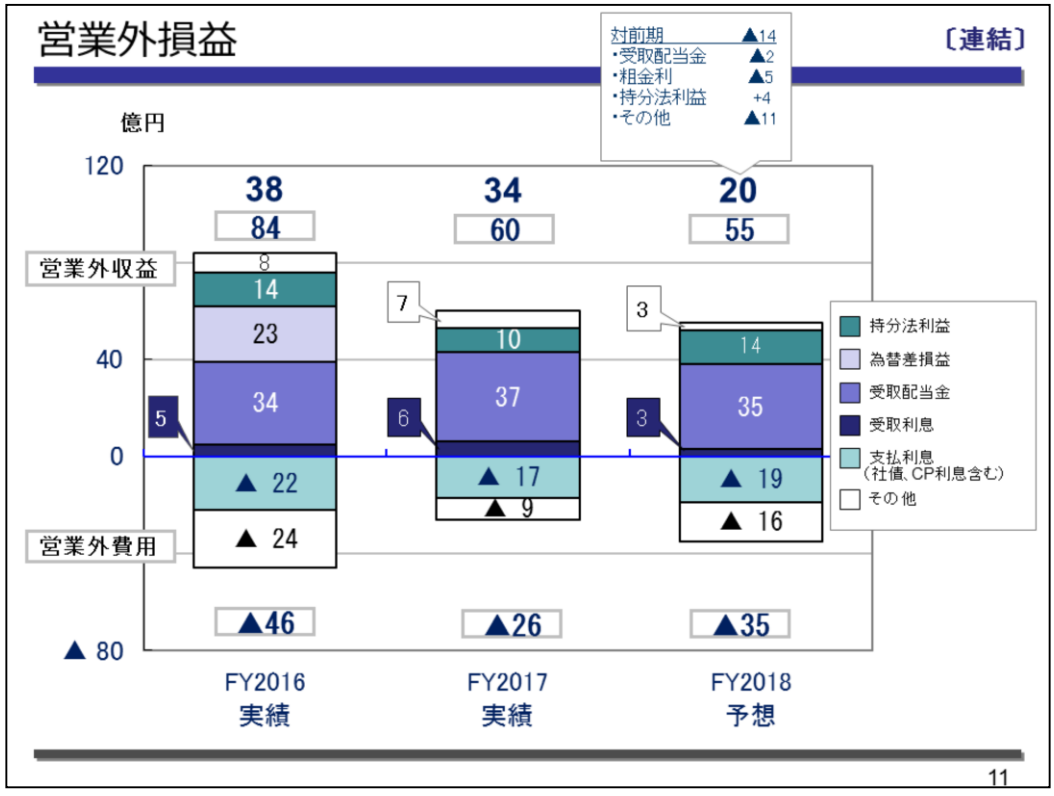
- ✓ 次期は、研究開発費等の増加を見込み、対当期で23億円増加の870億円となる見込みです



✓ 当期の営業利益は、対前期で411億円増益の1,819億円となりました

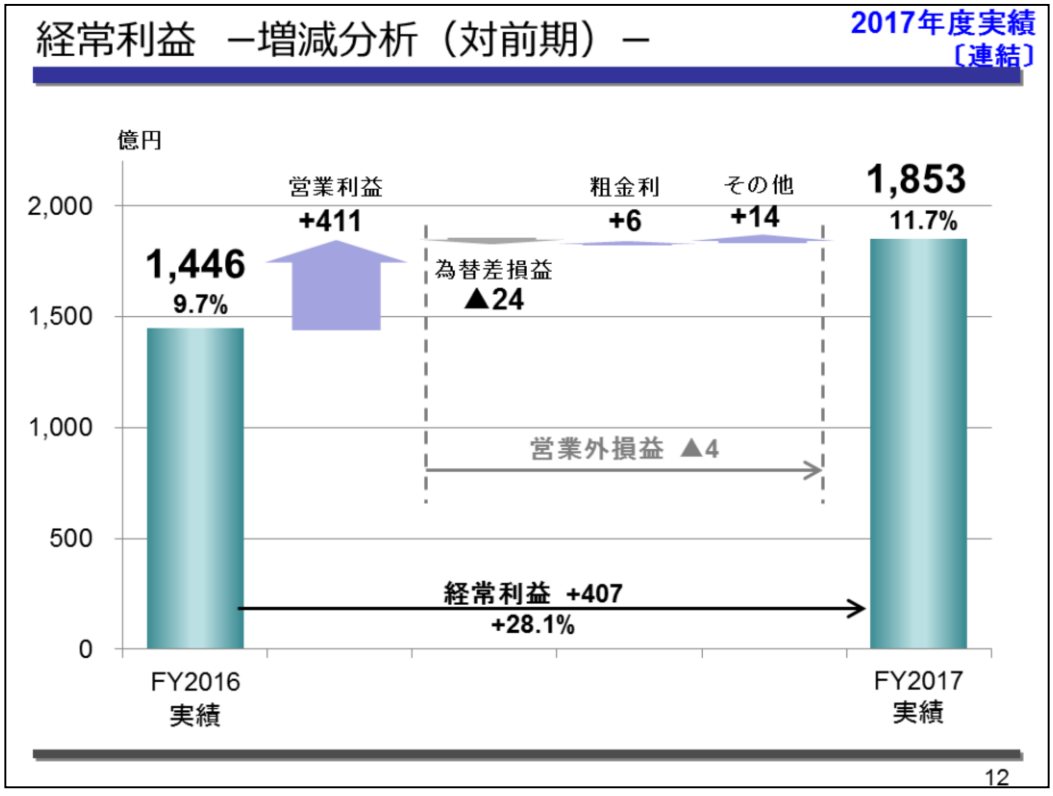


✓ 次期の営業利益は、対当期で509億円減益の1,310億円となる見込みです

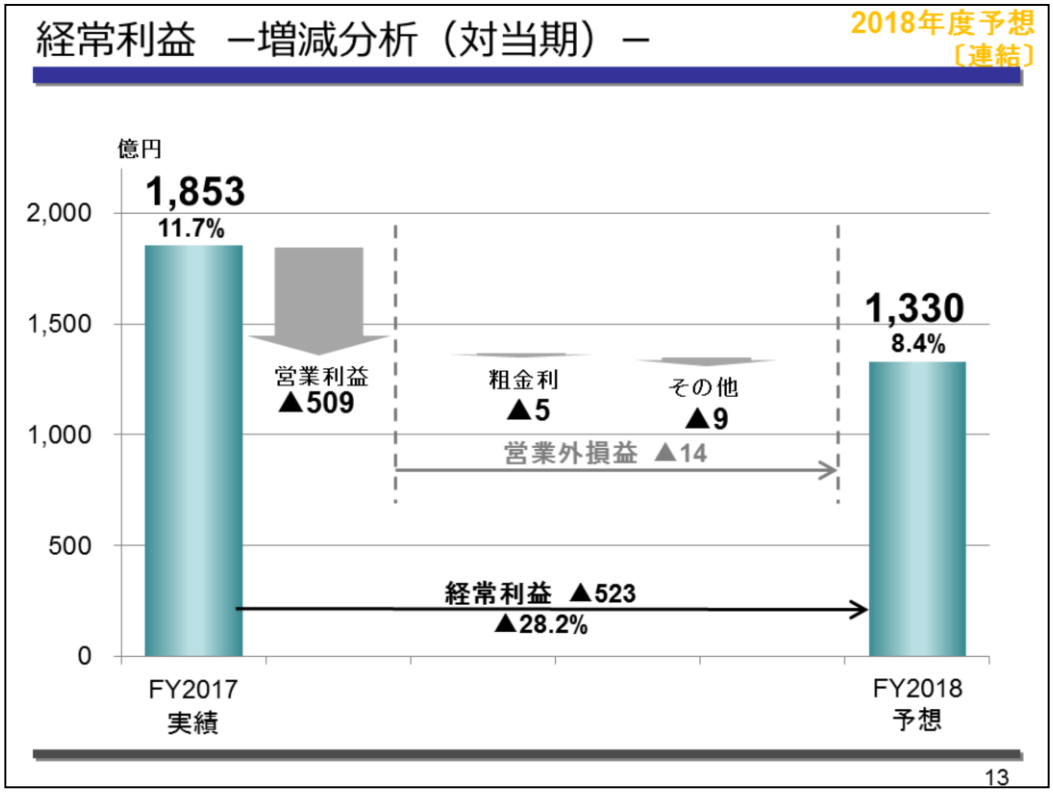


- ✓ 当期の営業外損益は、34億円の利益となりました
- ✓ 前期との比較では、金融収支が好転しましたが、為替差損益の悪化などにより、4億円の悪化となりました

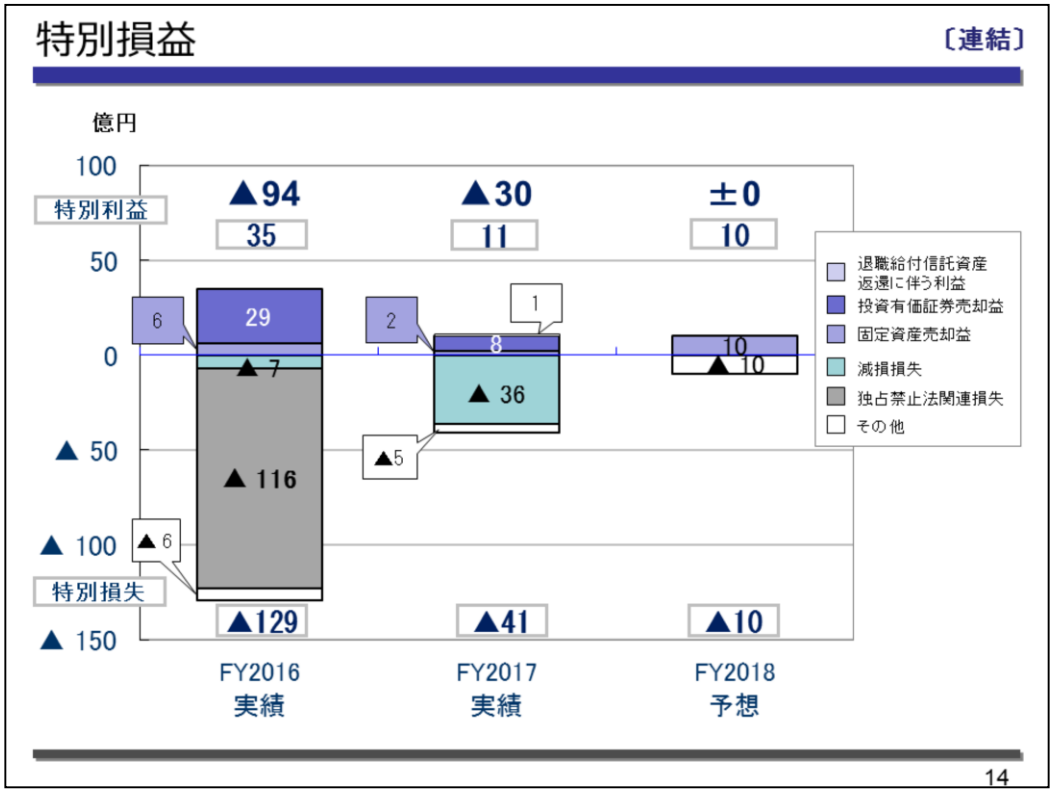
- ✓ 次期は、20億円の利益を見込んでいます



✓ 当期の経常利益は、営業利益の411億円増益、営業外損益の4億円悪化により、対前期で407億円増益の1,853億円となりました

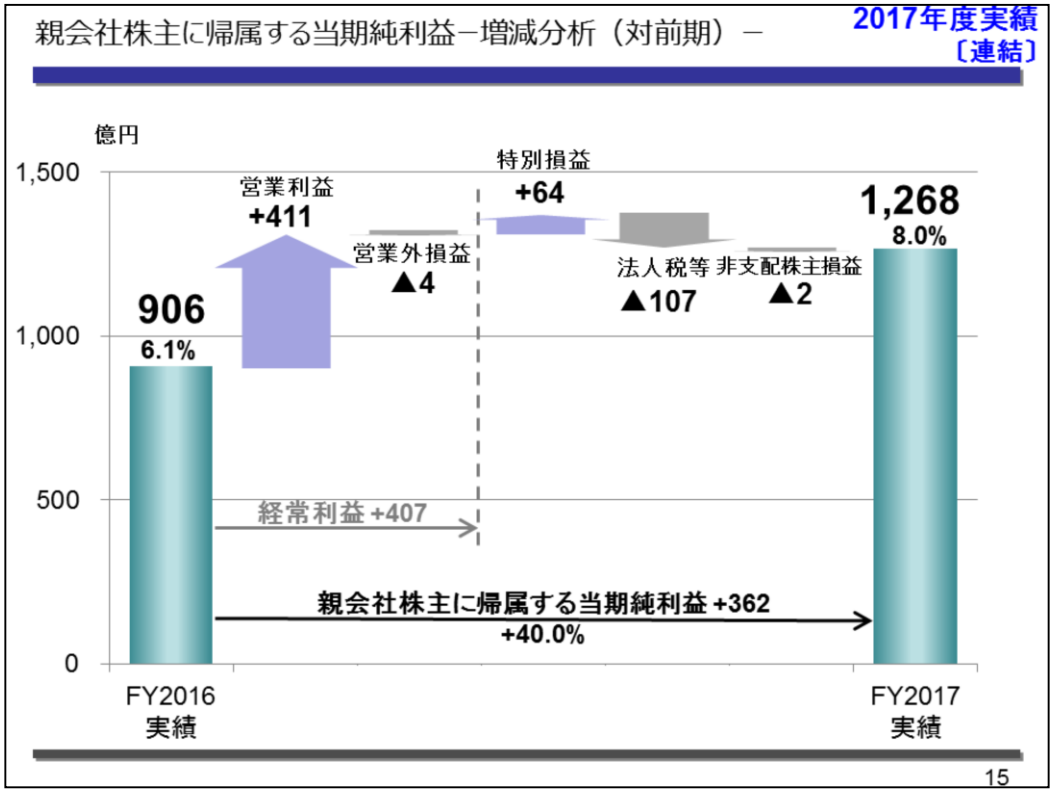


✓ 次期の経常利益は、営業利益の509億円減益、営業外損益の14億円悪化により、対当期で523億円減益の1,330億円を見込んでいます

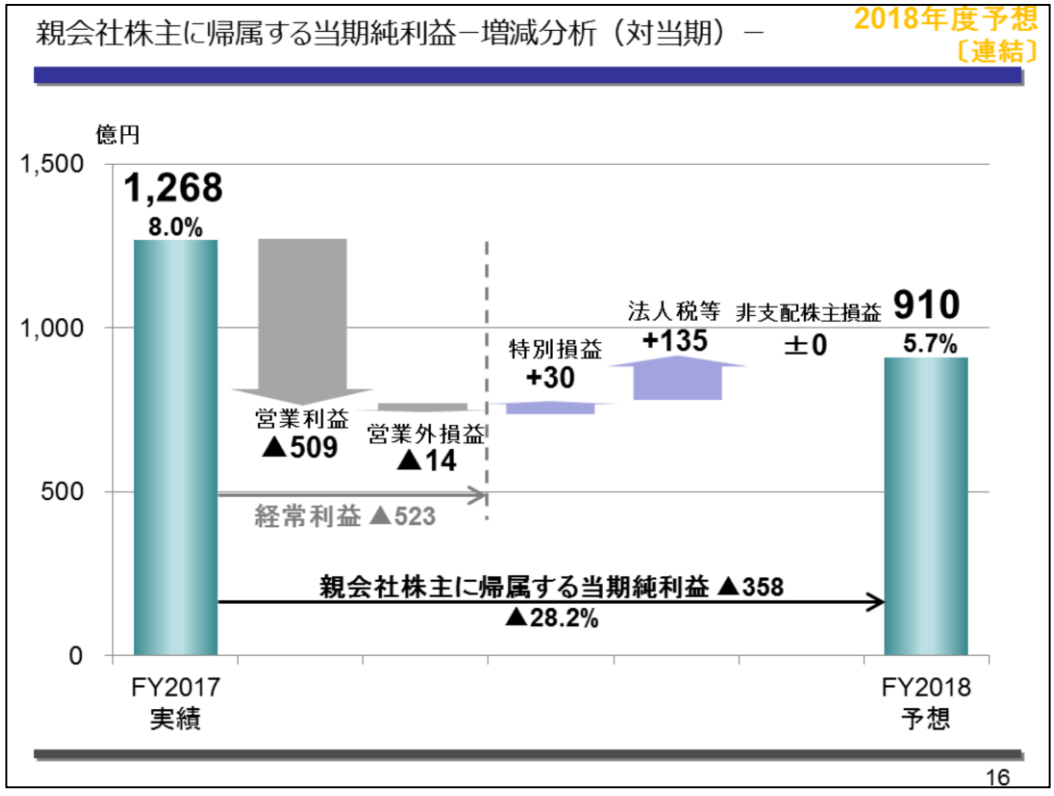


- ✓ 当期の特別損益は、主に子会社で減損損失を36億円計上したことにより、30億円の損失となりました
- ✓ 前期は大成ロテックにおいて独占禁止法関連損失を計上した影響で94億円の損失でしたので、対前期で64億円の好転となりました

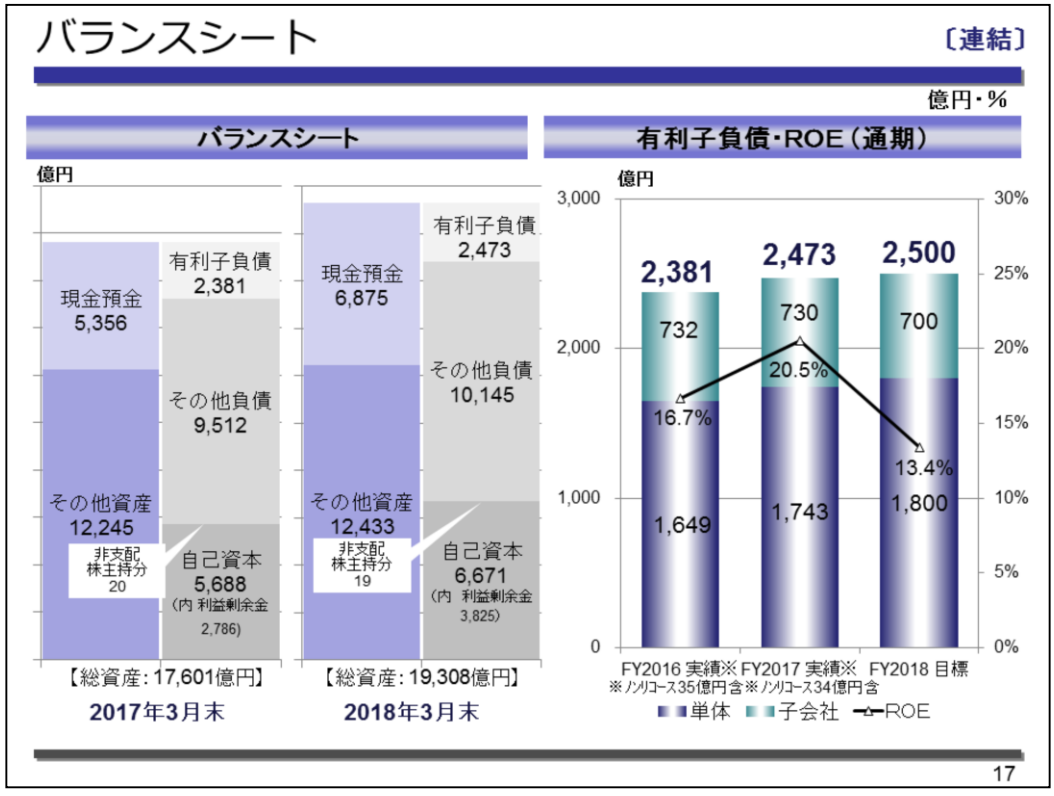
- ✓ 次期はネットで損益0を見込んでいます



✓ 当期純利益は、対前期で362億円増益の1,268億円となりました

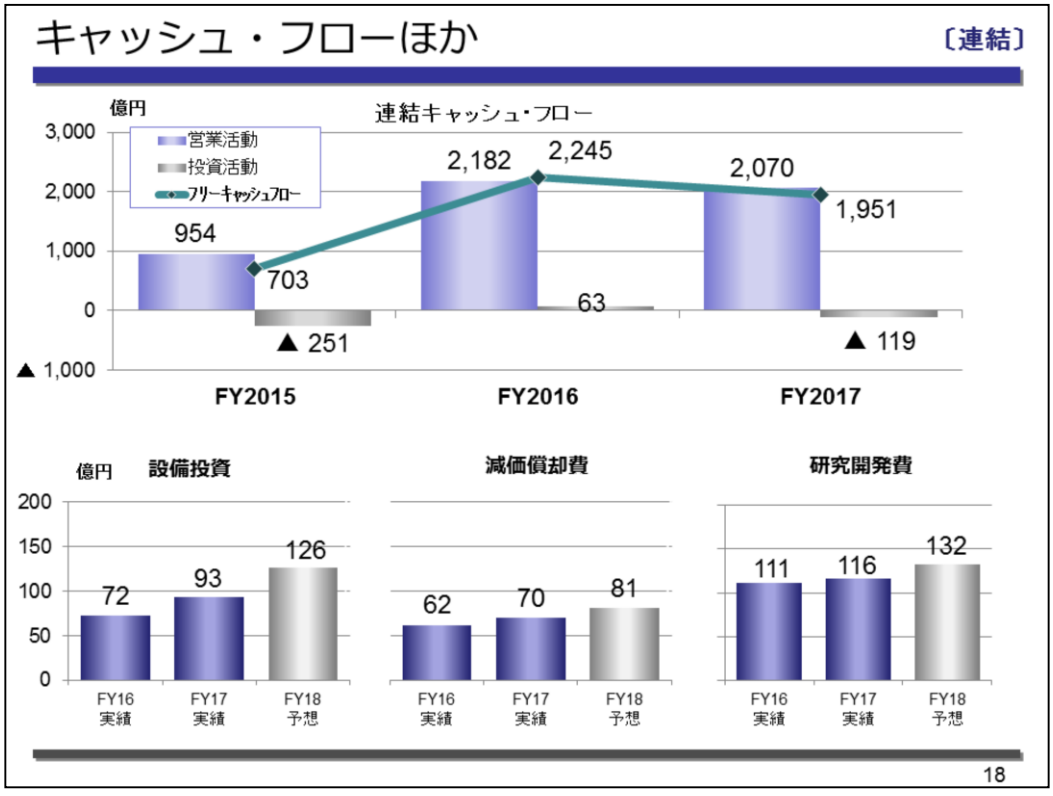


✓ 次期の当期純利益は、対当期で358億円減益の910億円となる見込みです



- ✓ 当期末の連結総資産は1,707億円増加の1兆9,308億円となりました
- ✓ 連結有利子負債は、前期から92億円増加して、2,473億円となり、現金預金は1,519億円増加して、6,875億円となりました
- ✓ 自己資本は983億円増加の6,671億円となりました。自己株式の取得・消却に伴い資本剰余金が250億円減少しましたが、利益剰余金は当期純利益の計上に伴い1,039億円増加の3,825億円となりました

- ✓ 次期の有利子負債は2,500億円を予定しています
- ✓ ROEは、当期の純利益増加に伴い、対前期では3.8ポイント改善し20.5％となり、次期は13.4％を見込みます



- ✓ 当期の営業活動によるキャッシュ・フローは2,070億円と、2期連続で2,000億円を上回りました
- ✓ また、投資活動を含むフリーキャッシュ・フローは対前期で294億円減少の1,951億円となりました